

教科:国語 単元名:スリーヒントクイズをつくろう

学年:特別支援

タイトル

「クイズ名人になって、楽しいクイズコーナーをつくろう」

10のキーワード

- ・正式な依頼
- ・志をともにする
- ・ごっこ遊び

問いストーリー(単元の概要・児童への願い)

<教師のねらい>・・・(個別の目標は別に作成)

本学級の1年生は、ひらがなの学習をした際に、ひらがな50音も定着し切れていないが、それ以前に物の名前を知らず、語彙の少なさを痛感した。それ以来、図鑑や絵カード等を用意したり、いろいろな経験を通して言葉を獲得させたりしてきた。今回は、スリーヒントクイズを出し合うことで、楽しみながら物の名前やそのものの特徴を表す言葉を獲得させ、語彙を増やしていきたいと考えて本単元を設定した。

1年生は、小学校学習指導要領第1学年の目標(1)を受けて内容【知識技能】オ・身近な事を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語句を豊かにすること。をねらいとしているが、個に応じて、特別支援学校学習指導要領、<第2段階>の【知識技能】アの(ア)物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類にふれることをねらいとしている。

4年生も語彙が少なく、読み書きが苦手なので低学年の目標に加えて様子を表す語句の量を増やし使えるようにすることを目指している。6年生は、指導要領の3・4年の【思考力、判断力、用言力】C読むことの(2)ウ、学校図書館等を利用し、事典や図鑑などから情報を得て、わかったことなどをまとめて説明する活動をねらいとしている。

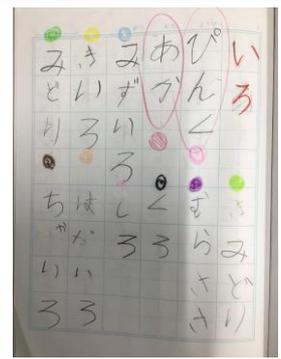
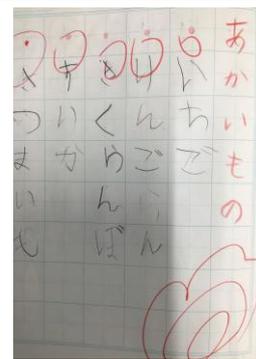
<主体的に取り組む児童の姿>

スリーヒントクイズを作るために、まずは、言葉をカテゴリーごとにまとめたり、カテゴリーごとに言葉集めを行ったりする。イメージマップなどを使って、物の名前からイメージを広げていく。友達の見聞を聞いて参考にする。クイズのヒントとして必要な、色や形や大きさを表す言葉も集めていく。食べ物や身の回りの物、動物園で見てきた動物等、見たり体験したりしたもので、その特徴を具体的に考える。必要に応じて図鑑や絵カードを活用する。特徴を調べる過程で、低学年は図鑑の文字を読めないで高学年とペアを作って高学年に読み取ってもらい、一緒にクイズを作成する場面も設ける。

単元計画

授業の概要

1	学習の見通しを持つ。(1年生は土曜ランドでのクイズコーナー。幼稚園・保育園からの依頼の話)。どんなクイズができるかな。ク(今までやったクイズを思い出す)
2	クイズに必要なことば集めをする。(実物や図鑑などを活用)
3	3ヒントクイズを作ろう! クイズの作り方を知る。(NHKの番組視聴)
4	「質問ゲーム」でヒントを引き出す。(はてなボックスに物を隠しておき、何が入っているか、児童に質問させる。教師が答える。慣れてきたら、児童にも出題をさせる)→児童はカテゴリーを意識して質問する。(色・形・大きさ・何の仲間か、使い方等)カテゴリーについても知る。どういうときに使うかを質問させると答えに近づくことを知る。
5	導入で質問ゲームをする。
本時	質問ゲームの質問がヒントになっていることを知る。 スリーヒントクイズを作る。出題する。
6	依頼を思い出し、より幼稚園生・保育園生がわかりやすいクイズの出し方を考える。(ヒントの言葉や順番を考える) (園児が知っている物であるか、吟味する)



なかま言葉集め

質問ゲーム

例①色は何色ですか?

②どんな形ですか?

③何の仲間ですか?

等

